

倭文庫

紙本 冊
六八 冊



へ13
2944
12

特

昭和九年
七月九日
購求

倭文庫

三十四編

万喜應賀署
歌川國貞画

錦章堂様



五帝



倭文庫

二拾四編下

丙辰歲新彫

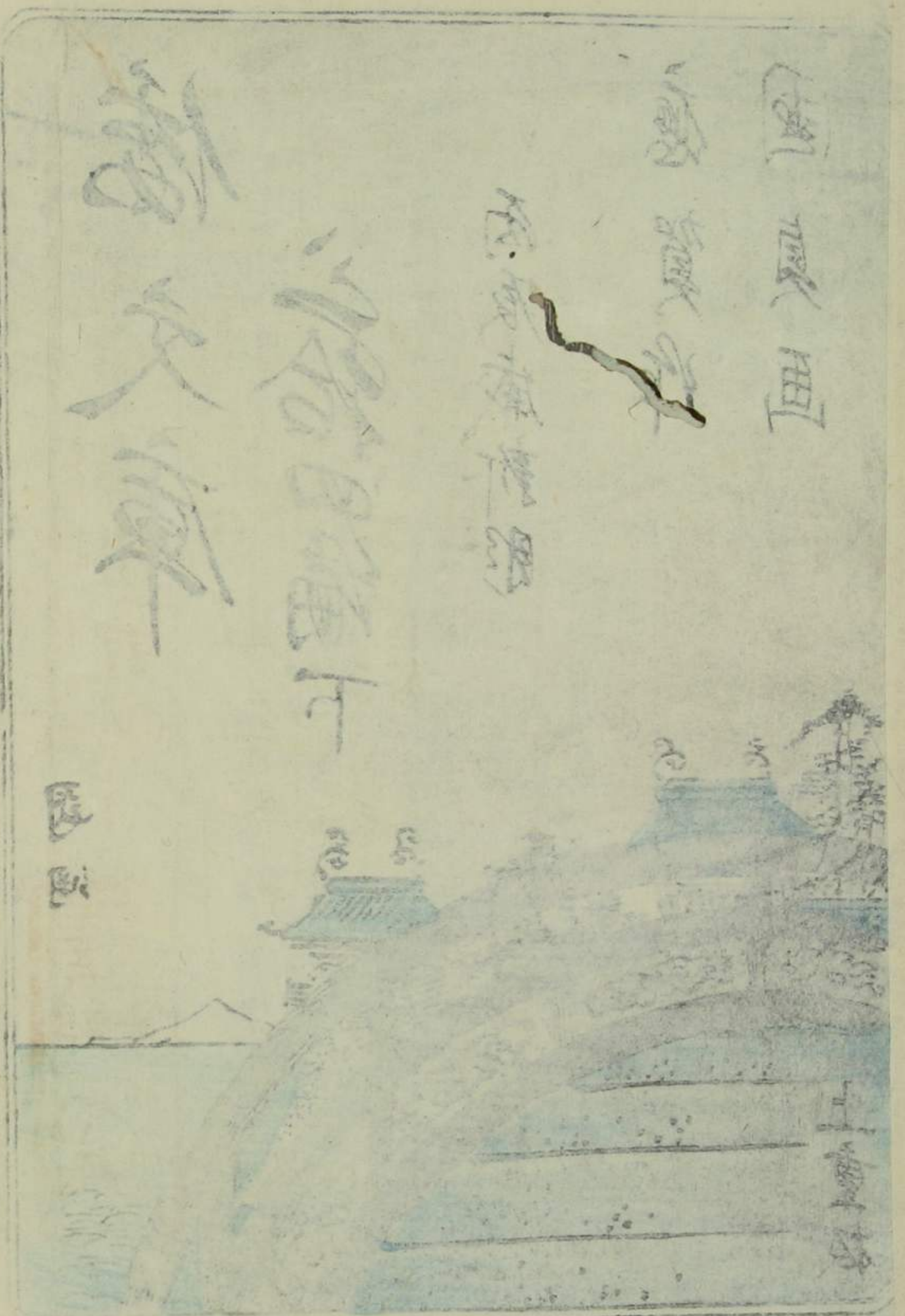
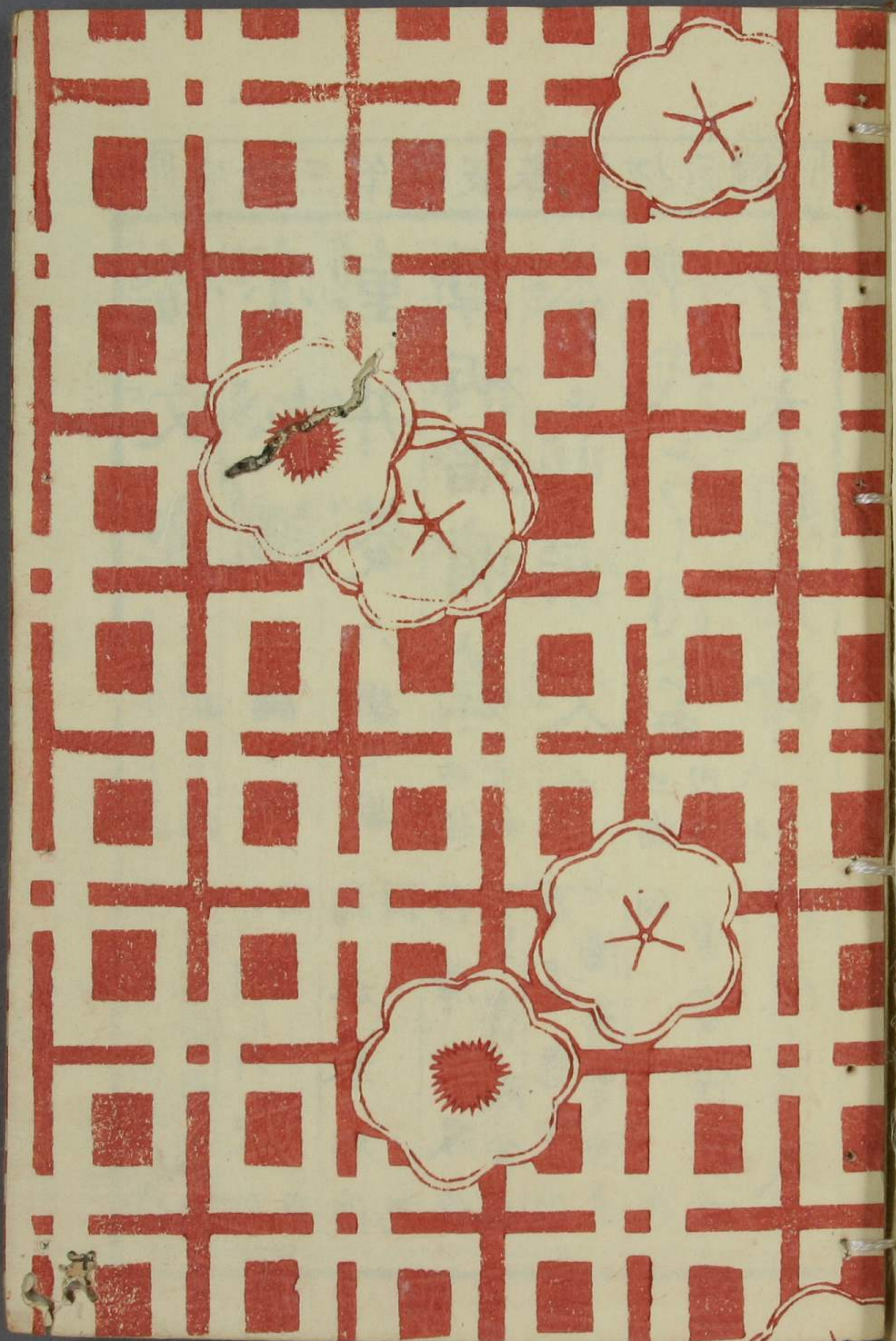
應賀作

國貞画

国



上重板



卷之四
 卷之四
 卷之四
 卷之四

四



回錄目板新春辰丙午三政安回

倭文庫

三十四編三十五編
三十六編三十七編

萬亭應賀作
一陽齋豐國畫

赤松譚

九編十編

同如洲外史作
同

重井菱

六編七編

同為永春水作
同

譚柄瑠璃

四編五編

西澤一鳳作
一勇齋國芳畫

茶番案文

全冊

萬亭應賀作
一陽齋豐國畫

神代もろけ草

三編四編

同一勇齋國芳作
同

重本類錦繪

人形上州

屋重藏

回錄目板新春辰丙午三政安回

倭文庫出世双六

萬亭應賀作
一陽齋豐國畫

春の将棋双六

同歌川貞房作
同

男女役替双六

同

一陽齋豐國畫

大寶御江戸圖

極上摺奉書六枚半續
出板

清元稽古本

初編二編

退く板仕

常磐津懷中本

初編二編

退く板仕

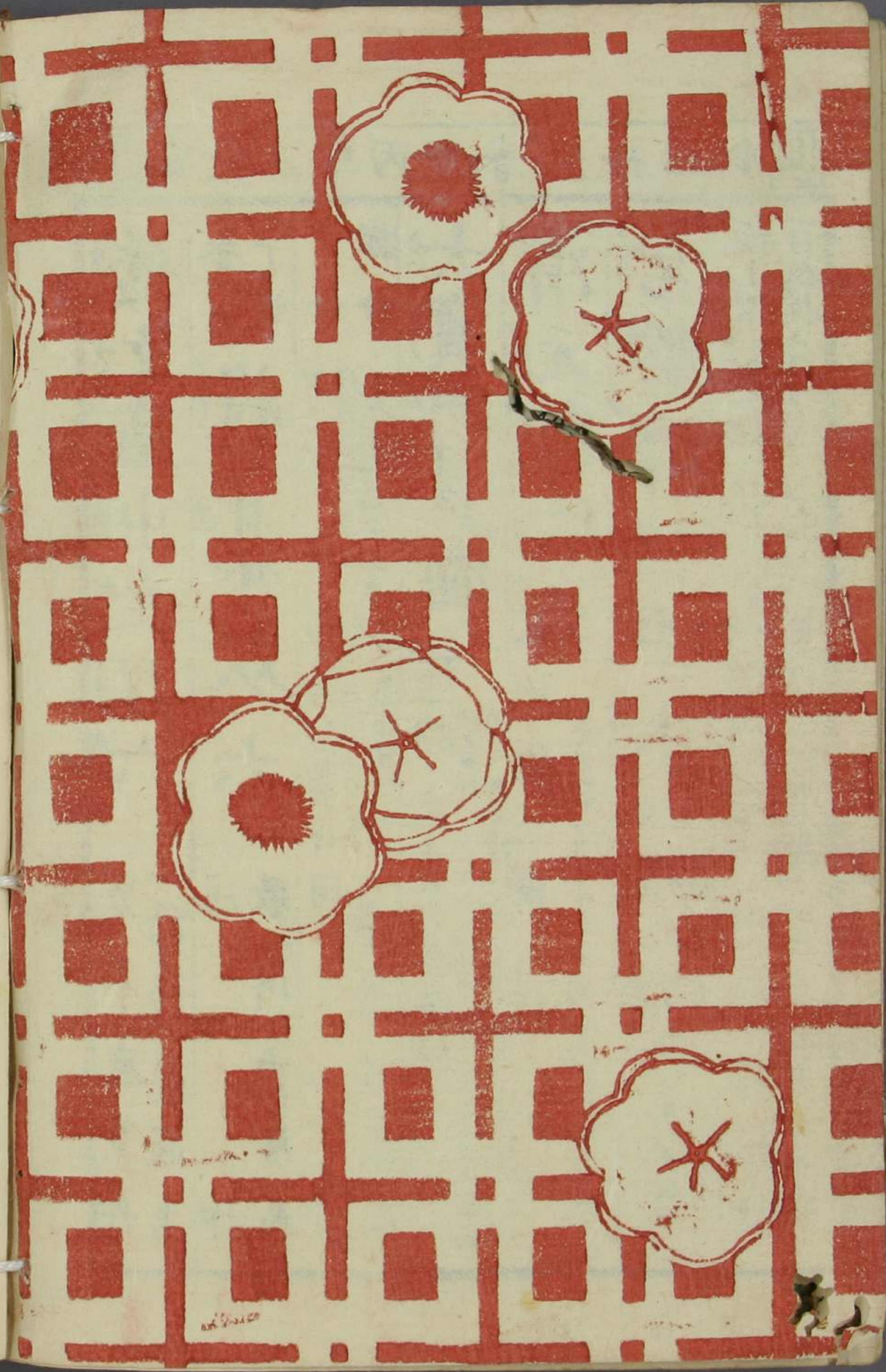
極上摺擬百人一首

立

陽齋國芳合
陽齋廣重筆



幾行
西風
三平



万亭應賀作
歌川國貞画

安政三年
丙辰孟陽
發行



上

倭文庫三拾四編

外題曲多因集



下

錦重堂梓



万亭應賀作
歌川國貞画

江戸人形町通
上州屋重藏版

釋迦八相
倭文庫
三拾四編
上冊

三十一

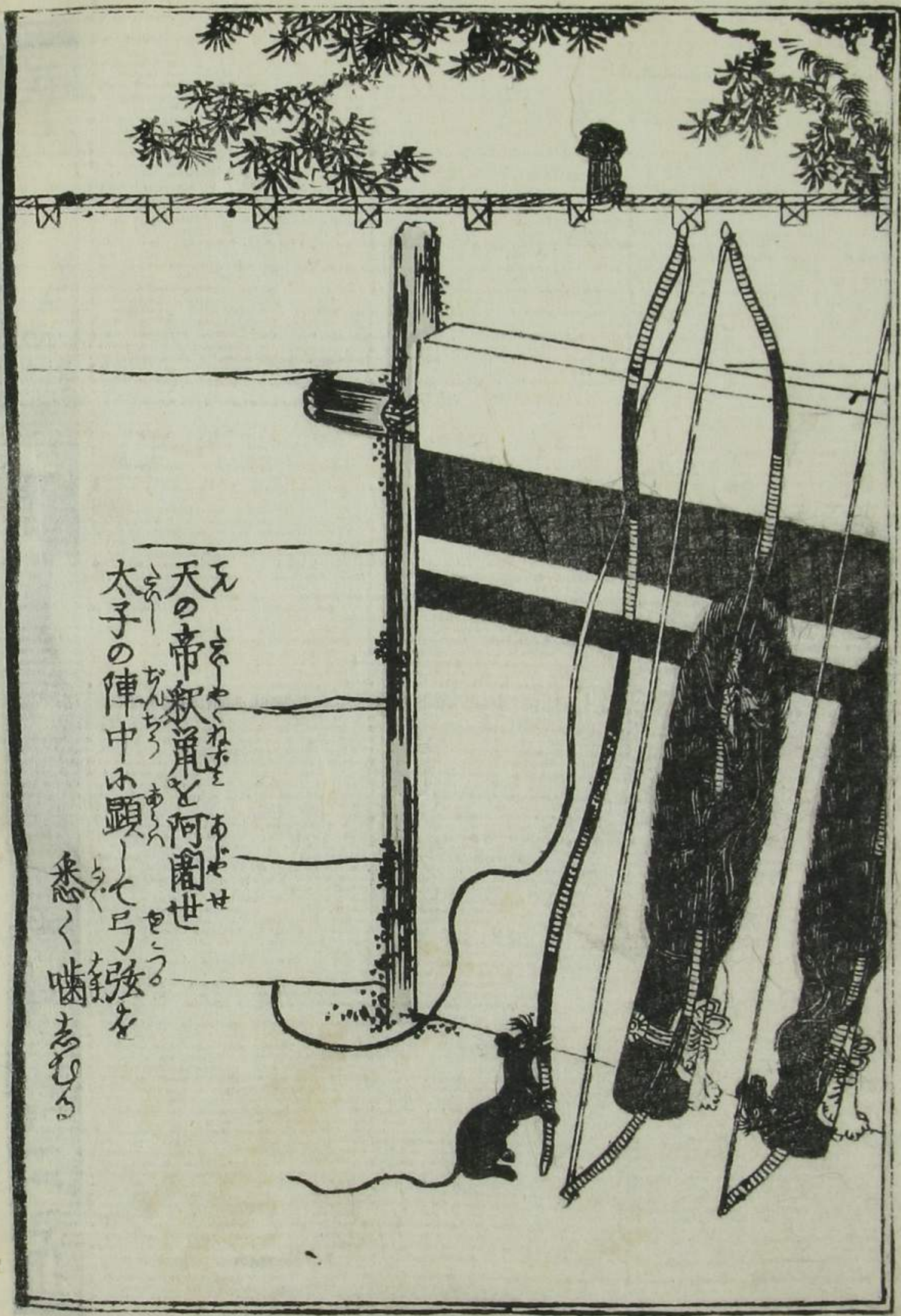
釋迦八相倭文庫三拾四編
夫猫王山の歡喜大王最期の惡念分身して数万足の猫となりて末
世如来の正法を妨るるを紀せし是涅槃像小猫の因と一口見ん
が爲るゝ介るゝ今の世上魚量の弘法小肩を劣るゝ味線の流行りと宗
像も置ぬ裏家にすてチンシンの爪弾あり殊小又青橋等いはい第一の
品とされば是が爲るゝ正氣と失ふ客マア一の觀音の再生と作し物記の中
に其の宮の猫撫声の拍木の甕啼何ぞも平るゝと云ふけれど又世に
て仇るゝ春の春雨のあつちの濡る雪と云ふ処に極樂浄土佛の
無との猫のニヤムと云ふ世に似たるの經文の中ニヤムからん
戲るでもるゝ晒落でもるゝ欲小伸るゝ爪の毛研るゝ唯
と云ふかく而已

安政三丙辰年
陽月吉旦渡行

万亭應賀誌

倭文庫





えん
 天の帝釈龍と阿闍世
 太子の陣中頭て弓弦を
 悉く噛み切る

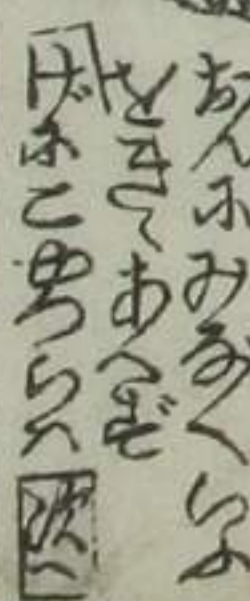


天の帝釈龍と阿闍世
 太子の陣中頭て弓弦を
 悉く噛み切る

ちやとまて
 んふつとま
 どふちやぐ
 こひく
 ひよりもの
 さまひねり
 こつてあんど
 ちやめありて
 くれふそれと
 ちやぐふこと
 きふふとて
 びるんやうら
 るれどもゆ
 してとふ
 あひてさる
 ちやふんと
 きふとけこ
 うとあつう
 ちやぐつ
 ちやうせども
 あふふき
 ちやるぐ
 ちやふの
 ちやふんちや
 ちやの



とんてきあせん
 とくえん
 ささきつれん
 ままもあ
 すけりぬき
 手くらふあ
 のりゆわく
 がまんむの
 どさきふ
 やらうれて
 いみらんと
 やせ
 おら
 くの
 そこ
 あつと
 まくつれん
 たんざんの
 あはきそちへ
 やんでゑん
 なやとあ
 あんのみあ
 はきあへ
 はよこ男らん





作
子
厚
子
厚

あび
たぐ
あま
くさじあ
かのあせせ
のうづるを
いづくなま
せいふみぬ
はらどめ
やちのこ
るまてつもの
ともみえ
あらうき
かづを
のそひえ
あるうち
あひくわ
あのみもの
ナむなりて
ゆまずわか
そのうち
もろくろと
あひくわ
ゆきく
あま
あま
あま
あま
あま



あづのたのび
るうのみを
すま
して
さちあ
らわぬや
せな子の大木のあぢ
らのうへでかきこのあり
さまうちがむんはさうもの
たのびのこむれつてあま
るこのふもさうをみまね
そのうちあそびと
えにうつめのもろく
ふれのむすお
如來や
あま（受文）



傳傳不不厚厚方方日日

[illegible]

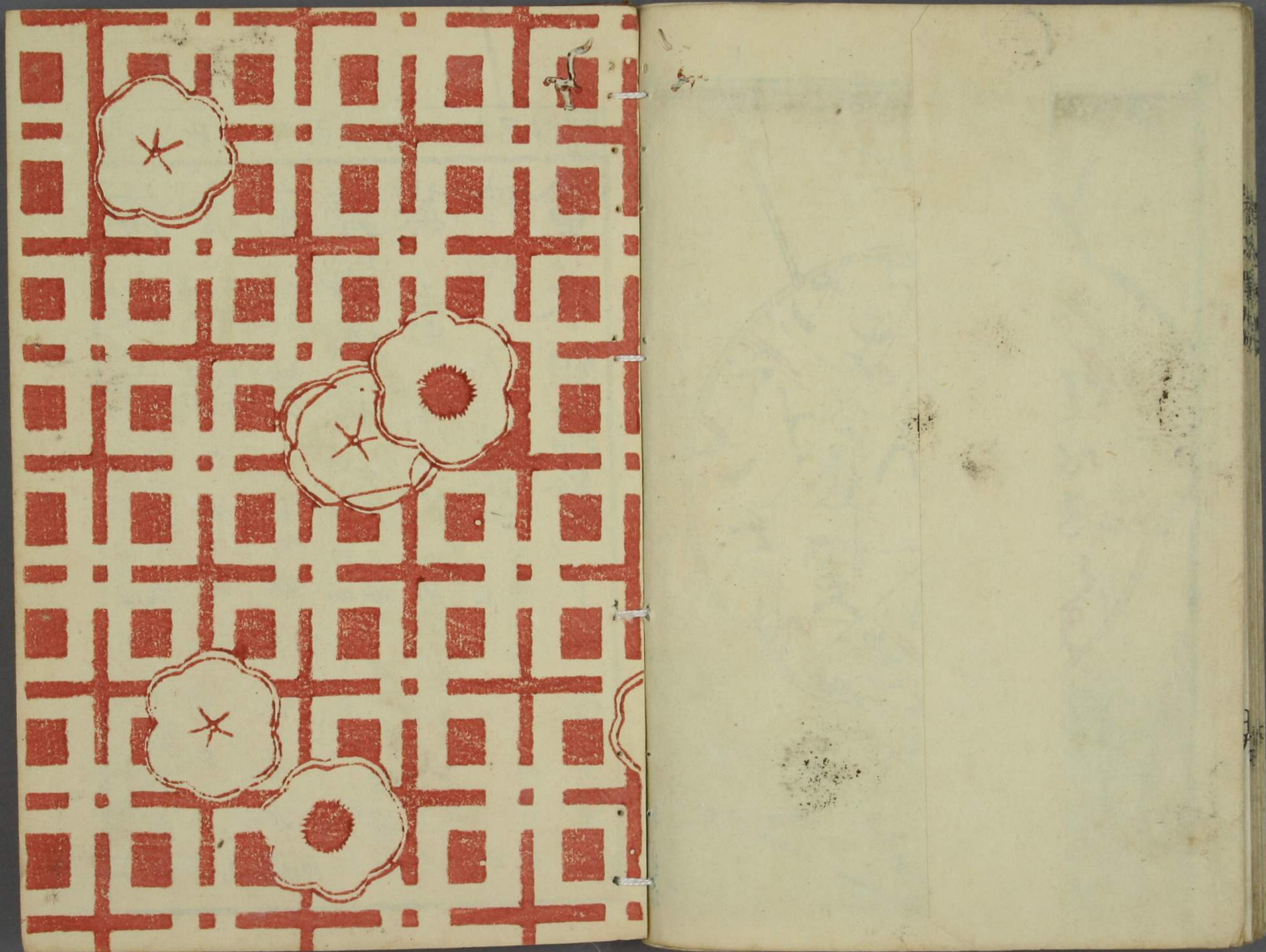
□うたれり
 なきとわましく
 うらぐらぐと女
 帝やん
 ゆえう
 もみさ如來
 のことなちと
 びでるようく
 こゝろむいふ
 かみかみ
 まつこのや
 むち子のえ
 糸とれたて

作
二
后
方

[illegible][illegible][illegible]

A black and white woodblock print illustration from a Japanese book. It depicts a woman in a kimono sitting on a tatami floor, looking down at a small, open box or container. The background features a patterned curtain and a floral patterned wall. The style is characteristic of Edo-period Japanese art.

[illegible]



歌川國貞画

文庫三拾五編

万應賀作

安政三
丙辰年
孟陽新刊

外題曲多因重

錦重堂梓

下

上



倭文庫三拾五編

田綱玄

應賀作

玉貞画

板上重板

釋迦入目倭文庫

三拾五編上

田綱玄

丙辰春發兌

万亭應賀作

歌川國貞画

江戸人形町通

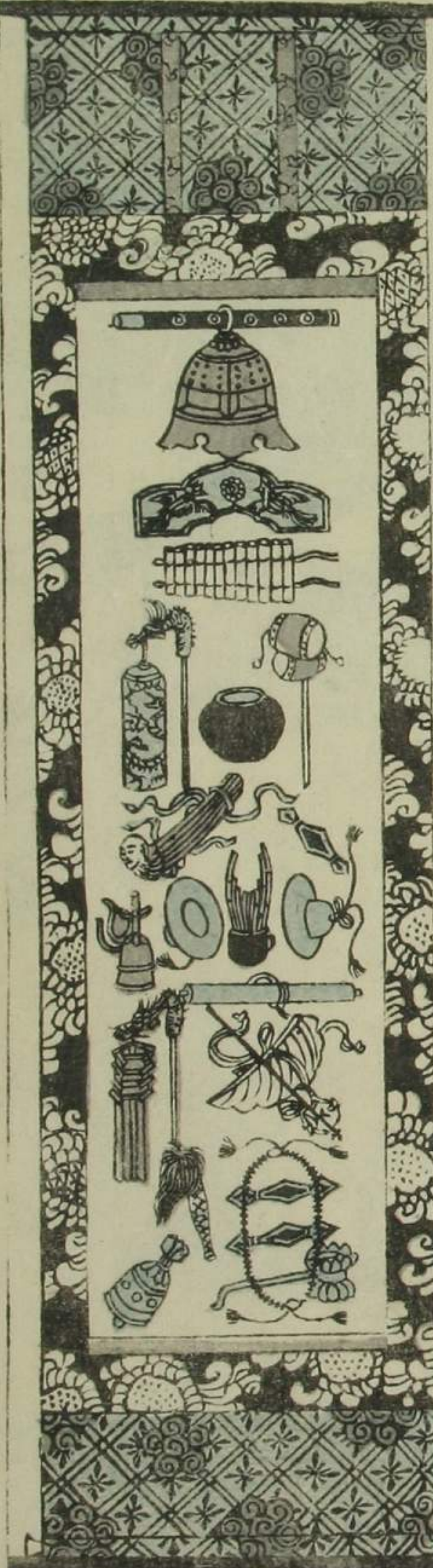
上州屋重藏壽櫻

寶無何延佛

利劍の名号弘法大師の筆
真物京都百万遍知恩寺に有り



五五尊の第七
師子吼菩薩
能作性の
玉とて
獅子王の剣と
製る
毘沙門
天王
師子吼
菩薩
師子吼
菩薩



佛具樂器の名号 聖徳太子の筆真物大坂天王寺あり

南無釈迦佛

番匠道具の名号 聖徳太子の筆真物大坂天王寺あり



おまたらゆい

羅喉羅太子

父の片袖を

携て

夕陽山

獨登り

其

らこしき子



像文庫
庫
州
土



下を今やもあぐはぐの月と
 ありとのまじり如來は
 かけてのさぬがめんも
 そのさき来た月ひとう
 きてそれいさめてやう
 うあつげをぞめきけ
 ちをそれあふにけなれての
 白きめイヤくさあうのと
 みるにまづそれうよちの
 ありとさんげのまをま
 かせをもつうた正あが
 如來はうきせんそき中
 せさうきひのちかきうの
 んまをそれうきあう
 かにんそはとあきさう
 てくはなうあるうけれ
 又あきちをまの智もあけ
 りあ宮の文の上まて
 うへまのものとひて
 がうられてひまをも
 の大とまうくまき
 うきれいさうとま
 年津御王のちま
 ざううそれのま
 かんのをまやま
 ひとまのちま
 ちうりまのちま
 ちうりまのちま



ちとせのしづと身
 せいのさうりや
 おくれもわらわ
 ようちかれせうは
 あういあうとわ
 のうとあうとわ
 川のあうとわ
 そとわとわ
 るてうとわ
 よとわ
 なとわ
 まとわ

作爲
五成
歷年
五洲

二

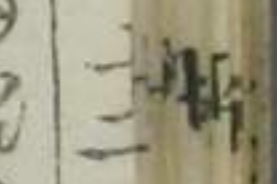
[illegible]

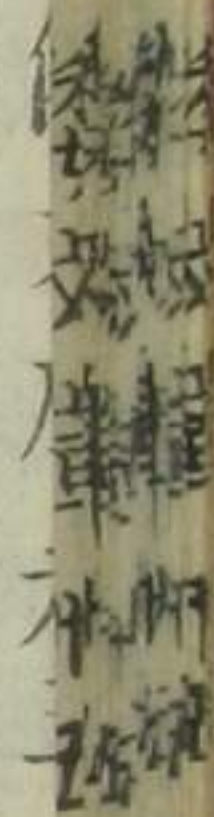
一の五つと云ふ
 二の五つと云ふ
 三の五つと云ふ
 四の五つと云ふ
 五の五つと云ふ
 六の五つと云ふ
 七の五つと云ふ
 八の五つと云ふ
 九の五つと云ふ
 十の五つと云ふ
 十一の五つと云ふ
 十二の五つと云ふ
 十三の五つと云ふ
 十四の五つと云ふ
 十五の五つと云ふ
 十六の五つと云ふ
 十七の五つと云ふ
 十八の五つと云ふ
 十九の五つと云ふ
 二十の五つと云ふ
 二十一の五つと云ふ
 二十二の五つと云ふ
 二十三の五つと云ふ
 二十四の五つと云ふ
 二十五の五つと云ふ
 二十六の五つと云ふ
 二十七の五つと云ふ
 二十八の五つと云ふ
 二十九の五つと云ふ
 三十の五つと云ふ
 三十一の五つと云ふ
 三十二の五つと云ふ
 三十三の五つと云ふ
 三十四の五つと云ふ
 三十五の五つと云ふ
 三十六の五つと云ふ
 三十七の五つと云ふ
 三十八の五つと云ふ
 三十九の五つと云ふ
 四十の五つと云ふ
 四十一の五つと云ふ
 四十二の五つと云ふ
 四十三の五つと云ふ
 四十四の五つと云ふ
 四十五の五つと云ふ
 四十六の五つと云ふ
 四十七の五つと云ふ
 四十八の五つと云ふ
 四十九の五つと云ふ
 五十の五つと云ふ
 五十一の五つと云ふ
 五十二の五つと云ふ
 五十三の五つと云ふ
 五十四の五つと云ふ
 五十五の五つと云ふ
 五十六の五つと云ふ
 五十七の五つと云ふ
 五十八の五つと云ふ
 五十九の五つと云ふ
 六十の五つと云ふ
 六十一の五つと云ふ
 六十二の五つと云ふ
 六十三の五つと云ふ
 六十四の五つと云ふ
 六十五の五つと云ふ
 六十六の五つと云ふ
 六十七の五つと云ふ
 六十八の五つと云ふ
 六十九の五つと云ふ
 七十の五つと云ふ
 七十一の五つと云ふ
 七十二の五つと云ふ
 七十三の五つと云ふ
 七十四の五つと云ふ
 七十五の五つと云ふ
 七十六の五つと云ふ
 七十七の五つと云ふ
 七十八の五つと云ふ
 七十九の五つと云ふ
 八十の五つと云ふ
 八十一の五つと云ふ
 八十二の五つと云ふ
 八十三の五つと云ふ
 八十四の五つと云ふ
 八十五の五つと云ふ
 八十六の五つと云ふ
 八十七の五つと云ふ
 八十八の五つと云ふ
 八十九の五つと云ふ
 九十の五つと云ふ
 九十一の五つと云ふ
 九十二の五つと云ふ
 九十三の五つと云ふ
 九十四の五つと云ふ
 九十五の五つと云ふ
 九十六の五つと云ふ
 九十七の五つと云ふ
 九十八の五つと云ふ
 九十九の五つと云ふ
 百の五つと云ふ



④工をひらぬ
 ゑうさとな
 のはえあも
 あもこれのま
 えのふたがほ
 かせびともう
 ふつににさか
 んこれそなを
 やそのるべあ
 まさうせんも
 とれまこうれを
 年うめぞく
 たらちきをこ
 はかにあまを
 よくつらぬを
 つかせつれ
 かさるとのみ
 うあふよと
 つてさうかう
 いふんさすに
 ささみー

卷之五

[illegible]



[illegible]

世

わがさうらひ
のせうをきいて
如來のやうな
おとこになる
事をいふ
そのさいど
つゝわれは
けしめあま
らぬのをい
ふぞあま
あまの
まんぢ
らんを
あめん
いふ
あまの
ことを
いふ
てき
ちんと
たふ
みくら
まとの
てのち
よのつ

委文庫北五

仙傳記
 二巻
 神皇正統記
 五十五



仙傳記
 二巻
 神皇正統記
 五十五



仙傳記
 二巻
 神皇正統記
 五十五

仙傳記
 二巻
 神皇正統記
 五十五

[illegible]

十一
七

とちのつぎにうづ
万に千のつちかきと
そひふちこよ
れあふささまふ
ハレヤサウの
るさやて八え
千のばんぶと
ぢきりこのの
いさくあり▲

① あしけいへんはなみ
あられたてゑきたた
えんをすもあたる
おほくのあめのもろむがこと
継父との師子頰王(オホノコ)

上おもをかぎりなく
よりそのにつらき
あらんことをせ
ゆこそあるん
中巻

おとし
本歌へ
おめよく
おりの市
新編
大内
人々

まゝありてさうけり
 まゝあるてさうけり
 まゝあるてさうけり
 まゝあるてさうけり

ありてそのあふりたるをまの
ちづけてせんを五ふのむら
おきてよりまをまをまの
あふりたるをまの

二、排解

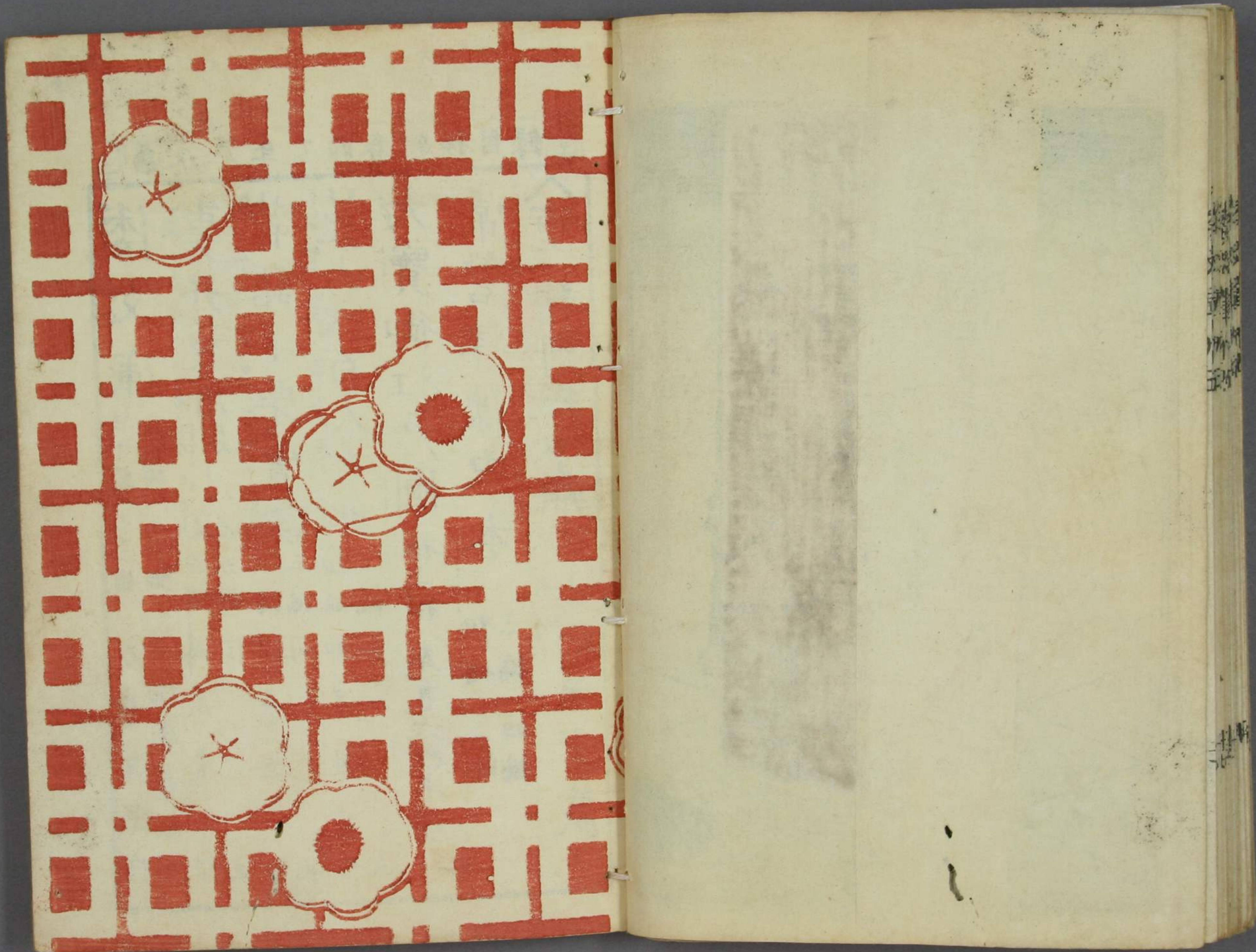
△けれども大般願のうちにまき
まもる人々をうへふありまの
おれは方々にまきやま
たものさしをまた
しいくことあるほど
さうせいのさうふあつ
まゝにまきをもあふと
あてあそびやうなまき
らば子孫のまきを世に
あそびやうなこのまき
次へのまきをえて
あそびやう



万亭應賀作
歌川國貞画



万
年
萬
年
萬
年



倭文庫三拾六編

外題夢文園集

安政三

丙辰年

孟限新刻

錦里堂版

歌川國貞画

萬葉集



上

下

釋迦八相
倭文庫

第三拾六編上

万亭應賀作

歌川國貞画

丙辰春

開市

小国

上州屋上梓

一

釋迦八相倭文庫三拾六編序

孔子の云君子に三畏有るといふも畏天命畏大人畏聖人
言の三也小人の不知天命して不畏神大人聖人の言を侮
る是所謂佛門の三帰依也彼小天命と畏る所は即是帰
依佛より彼小大人を畏る所は即是帰依僧也彼小聖人の言を
畏る所は即是帰依法也叔四諦といふ苦集滅道を云夫
苦は生老病の数集の骨肉財物と聚集を滅へ寂滅止
息道の懷道修行を云也此文卷中の著とべきと畧
て茲に載ると爾云

安政三稔
丙辰孟陬

万亭應賀誌



優陀夷の女房
耶輸陀羅女

耶輸陀羅女
阿難を戒師
とく節を
落し得道
を願ふ



耶輸陀羅女

阿難尊者





〇〇ヤヨウの
 るあゝあゝこれ
 らのあゝあゝや
 うのあゝあゝ
 〇〇ヤヨウの
 るあゝあゝこれ
 らのあゝあゝや
 うのあゝあゝ
 〇〇ヤヨウの
 るあゝあゝこれ
 らのあゝあゝや
 うのあゝあゝ



〇〇ヤヨウの
 るあゝあゝこれ
 らのあゝあゝや
 うのあゝあゝ
 〇〇ヤヨウの
 るあゝあゝこれ
 らのあゝあゝや
 うのあゝあゝ
 〇〇ヤヨウの
 るあゝあゝこれ
 らのあゝあゝや
 うのあゝあゝ

〇〇ヤヨウの
 るあゝあゝこれ
 らのあゝあゝや
 うのあゝあゝ
 〇〇ヤヨウの
 るあゝあゝこれ
 らのあゝあゝや
 うのあゝあゝ
 〇〇ヤヨウの
 るあゝあゝこれ
 らのあゝあゝや
 うのあゝあゝ



〇〇ヤヨウの
 るあゝあゝこれ
 らのあゝあゝや
 うのあゝあゝ
 〇〇ヤヨウの
 るあゝあゝこれ
 らのあゝあゝや
 うのあゝあゝ
 〇〇ヤヨウの
 るあゝあゝこれ
 らのあゝあゝや
 うのあゝあゝ

たのもあ
るふとぞ
たやぐち
ぎとを
らうふふ
あふむ
ふふふ
ふふふ
ふふふ
ふふふ

出て
 の女
 房
 うわあ、
 だあ、
 ちやうど
 めんや
 ありの
 たちー
 うん、うん
 まー
 ああ、
 ありとも
 るわと
 ぶわの
 ああ、だ
 ついて、
 ちんちん
 まー、
 ちやうど
 めんや
 うわあ、
 だあ、
 ちやうど
 めんや
 うわあ、
 だあ、
 ちやうど
 めんや

俗方廬

〇美りんの身と
 ちれぬまの
 おねねおま
 ろりこれお
 よあ
 て
 日れ
 白
 赤
 まりあつ

よちのちを

名
 五七
 身はあ
 るにれ
 天のなり
 如來の
 るにれ
 之をい
 ずるに
 なるに
 なるに
 なるに

[illegible]

大あてのちひさなるおきまつた
 べんひやうに如來のみのり
 とききあはするあま
 だけちあんて
 せんごちやうざう
 られちやうざう
 とあてちやうざう
 みくこのちやうざう
 ちやうざう

あつて
またあのまゝに
とあるまじくあらせ
たのもうあら
るもの
やね
ふり
とされが
女房へ
うちか



ちぢあうらふ
 のりておくせう
 やうあふと
 みまのちぢるたる
 むさふゆせらる
 八如來もすさむ
 まがやめれる
 このうちのおやせ
 に帰る十二行は
 うやんをてんとて
 おまのこころをき
 こゝろをせつあふと
 ういとおわりな
 まあるやを
 みうごえど
 めたのさの
 りのみあ
 かんのふ
 をそと
 ひさしぬ
 からそこ
 る光の
 大なる
 つま
 づか
 葉を
 たぐり



わう
まぢ
くく
まじ
しんが
ちんか
あけらるも
とぞげぬいてやい
つづきつゝいふ
うんげのいふこふ
められねえん
さうりいさういふ
むくめ藤花を
うつこのおれが
あてあはしてアラ
入ぬのあんぶの
うごかうとび
のはあふた
ふくれかれさう
さういふこと
とふのおよくさ
いでこれよりい
すめられ光をあ
合はすといふ死
えぬのうとあふ
でめうけいふ
やめそれゆひ

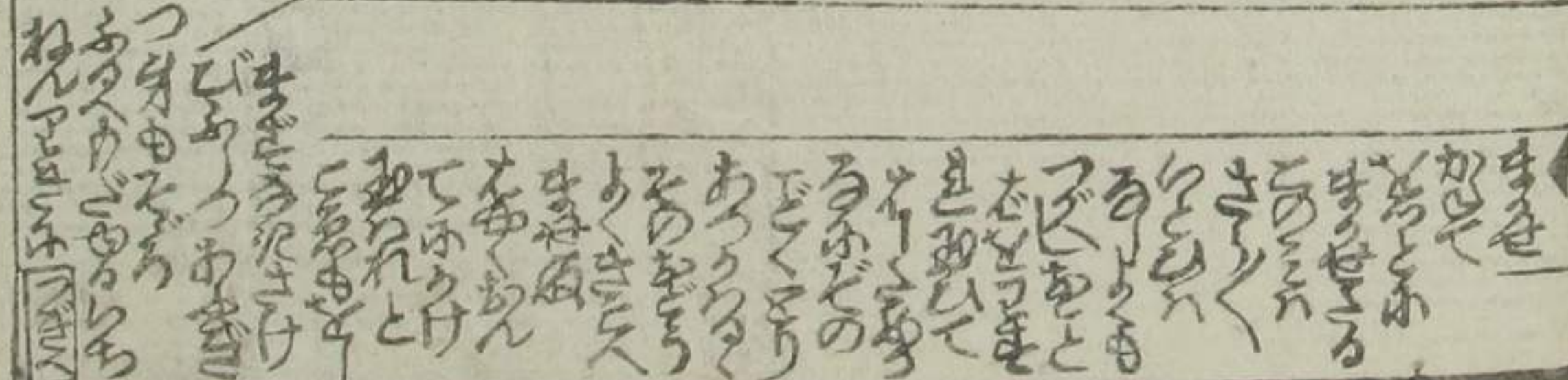
三〇五

てふかりてそ
るべし人の
んちうぞや
もあてふ
ふりや
こよる
ふりや



如

えのゝあそびを
ちのせぬらうと
つゝあそびを

[illegible]

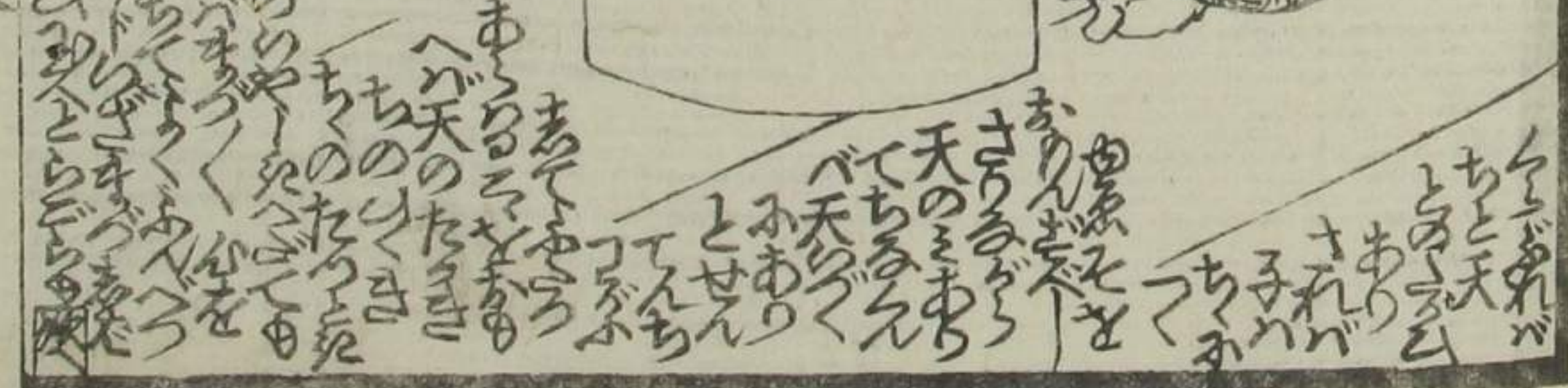
[illegible]

金
 ら
 女房へおわり
 たのそがひある
 あんせんさあき生
 だんあすたえん
 りうしコレのみ
 ひるう人

作作
又又
雇雇
方方
方方



△おひちをさ
ぬとのさうまをき
あゝとておひちをさ
たれとておひちをさ
△



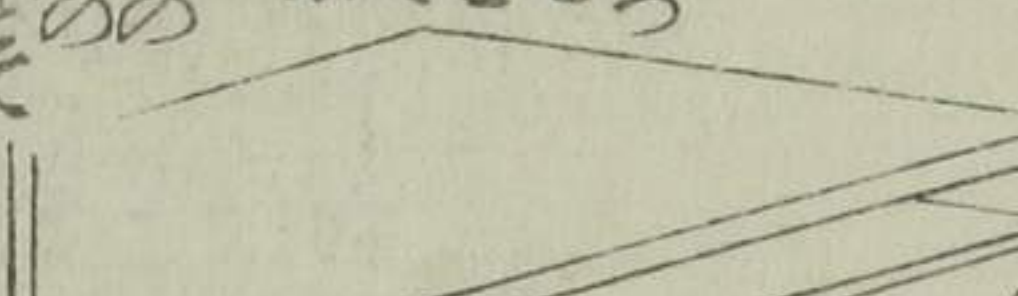
今更の云むしのせむもあれと
 云むれどもに免されば
 さればこそする利をゆつて
 ひやのまんけをそとる
 上さうおととのあふ
 ちきみされ女のねま
 ち利おひそくして利お
 おむさればこそそのま
 あらぬまのやこそ
 さんちも女ふこそ
 かさねをのてさねの
 まりのむくふ
 そまのふくふ

口女人のきよさう
 まちせのあん
 るでうす
 ぶちあふ
 これとて
 へんた
 まうと
 のあん

ての女の
月のうへお
そまゐる性
あつたあつと
いふまでひこ
きうこれをや
せんやまへのち
あつこのころを
あつこのころを
ハ散らうとまのり
てめて大精進
をくすめんのハ
女とのへといけちあん



うしろまれの
たれとそ母の
をかりちよる
おんきり
さくしや
もてや
あつ
せを
中の女
人を
さして
あふぢ
あふせ
のんと
おまで
お如東
いた
ふあんの
ふあんの
なめあとして
みのりの
ごまきぎ
あふらむ
やぐい女
あふらむ
お人をお
とあらね



① あつと
ふんぬのふれ
かてよりふんぬか
ふんぬのふれ
ふんぬ

田舎より
 さればそ
 うなり
 女と父
 とも

あて如床ぢきしふ
かのとさうけそくち
せしめするものよう
あてふ
あてふ
あてふ



卷二

[illegible]

三

江戸形町通
上州屋重藏板

應笑也

倭文庫

帝六編

卷之七

三才圖會

万亭應賀作

壽齋國貞堂



へんてあのおとしくわがうまれが
 わきまなく天上の星をえび
 見ようあまのこころうりーとぞ
 ねぞう

嘉永八年乙卯春新板目錄

倭文庫出世双六

万亭應賀作
一陽齋豐國画

春の将棋双六

歌川貞房作

男女役替双六

一陽齋豐國画

武家奉公出世双六

同同画作

奥奉公出世双六

同同画作

極上摺擬百人一首百枚揃

一陽齋豐國画

重榮御江戸繪圖

奉書四枚半續

端唄の竹

小本上中下の三冊ありてその中に
あるあるはひふりくみくみくみ
をききききききききききききき

